

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る授業公開及び研修会を開催しました。

新たな学校教育準備
プログラム推進事業
通信 No.4

令和元年12月19日
教育指導課教育課程係

『主体的・対話的で深い学びの実現』に向けた授業改善に係る 授業研究会（書写） 新田小学校 教頭 黒川 利香 氏



10月29日(火)、泉区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立七北田小学校(相澤経利校長先生)

○5年2組・国語科（書写）
「部分の組み立て方1(しよう)『道』」
授業者：村上 朝子 教諭



において、授業研究会が行われました。当日は、仙台市内の各小学校の先生方と七北田小学校の先生方とを併せ、40数名の先生方が参加されました。研究主題「学習活動や日常生活に生かす書写能力の育成」のもと、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた2年間の取組の

成果を披露しました。全体を通して、新田小・黒川教頭先生から指導助言をいただきました。概要は右記のとおりです。



①主体的・対話的で深い学びについて

育成を目指す資質・能力の三つの柱を、各単元の中でバランスよく組み入れることが大切である。そのことが、主体的・対話的で深い学びの実現につながっていく。

②本時について

自分の課題を認識し、その改善に向けて取り組む・取り組もうとする主体的な学びの姿を参観することができた。また、相互評価を通して、自分では気付かなかったことについて学ぶ姿が見られ、深い学びにつながるものとなっていた。視点を適度に確認し、ねらいに向かわせる必要がある。

③これからについて

- ・「なぜ学ぶのか」という意識を持たせること。
- ・よりよい課題達成に向けて互いに共有する場面を設けること。
- ・形成的評価（学びの過程）についても重視すること。

「つなげて考え、学びを深める児童の育成～学習過程の質的改善を通して～」

東京学芸大学 准教授 高橋 純 氏



11月25日(月)、青葉区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立北六番丁小学校(伊藤敏子校長先生)において、授業研究会が行われました。当日は、午前中に6年家庭科の授業を、午後

に2年国語科、5年総合的な学習の時間及び算数科、6年理科の授業を公開し、午前・午後と併せて約180名の参加者がありました。授業後、東京学芸大学高橋准教授より公開授業の講評も交え、来年度から全面実施となる新学習指導領に関する学びの在り方及びプログラミング教育関連についてもお話をいただきました。概要は以下のとおりです。

- 6年2組・家庭科
「快適な住まい方を考えよう」
授業者：小泉 郁恵 教諭
- 2年2組・国語科
「どうぶつのひみつをみんなでさぐる『ビーバーの大工事』」
授業者：相原 裕起子 教諭
- 5年1組・総合的な学習の時間
「地域の魅力を再発見！
～地域の絆を再発見～」
授業者：星 博子 教諭
- 5年2組・算数科
「比べ方を考えよう」
授業者：佐々木 大地 教諭
- 6年1組・理科
「てこのはたらき」
授業者：藤原 俊輔 教諭

次年度に向けて

新学習指導要領が完全実施となる。しかし、授業づくりや学習計画等これまでの積み重ねがある。学習指導要領が新しくなるからといってそれらを捨て去るのは良いことではない。例えば、言語活動について、これまでの10年間と同様に大事にしていくのだが、そのレベルアップを図るための「主体的・対話的で深い学び」へつなげると考えてほしい。日常的な持ち物や学習規律などのスタンダードなどについても同様である。

併せて、新学習指導要領の教科の目標構造にも注視していただきたい。各教科とも「見方・考え方を働かせ」から書かれているということは、それだけ重要視されているということである。算数の解説「四則の混合した式や（ ）を使った式」を例にとると、現行では（ ）を先に計算すること（知識・技能）を教えて終わるケースが多かったのだが、新学習指導要領ではそれに加えて式に表すことの良さまで具体的に書かれている。発達に応じて、いずれは式に表さないと分からない時がくる。その時に、思考・判断の流れとして式があるのだ。先につながっていくのだというイメージを意識し、見方・考え方を働かせて本質的な理解を促す取組が必要となってくるのである。

「コンテンツ」から「コンピテンシー」へ

「コンテンツ」とは、知識や技能のことを指し、「コンピテンシー」とは問題解決能力・情報活用能力等のことを指す。つまり、「何を知っているか」から「何ができるか」、行動としてできるかどうか問われる事柄のことであり、さらには「工夫がされているのか」といったことまで意味するものである。新学習指導要領は、コンテンツも大事にしつつ、コンピテンシーまでを求めている。「生涯にわたって学び続ける」ことを前提として、コンピテンシーは、「一生の目標」であり、古くなりようがないと考えるべきである。ある教科での学びが他の教科や人生の様々な場面で役立つように教えているか、を意識する必要がある。

公開授業について（プログラミング教育含む）

どの教科も効果的なICT活用が見られた。特に教科書等の一部や児童の考えを拡大し、モニターで映し出す場面が多かった。これによってねらいが焦点化され、深い学びへと導いていた。教科書を丁寧に読むことを通して、学び方を学ぶとともに、事実を大事にして考えることの積み重ねが大切である。また、資質・能力を育むためには、まず知識の深まりが必要である。分かっていることについて互いの考えを交流する場面を設定したり、動きを体感しながら文章記述を確かめたり、解を求める過程の考え方について別なアプローチ（例えば、図を使うとどうなるか）を促したりするなど、主体的で楽しく興味を持たせるような授業が展開されていた。

家庭科（プログラミング）の授業については、体験・プログラミングの知識・技能の習得・プログラミング的思考の育成・教科の目標の達成、すべてができていた。「先生、もう1時間やりたい」という子どもの声が聞こえてくるような体験にしてほしい。コンピテンシーやプログラミング的思考については、一生の課題という認識でよい。今後各校で実践する場合は、まず、プログラミングの「体験」を子どもたちにさせてほしい。プログラミング教育で大切にすべき三つの視点は、「楽しく学ぶ」「考え方を学ぶ」「常に最先端を意識する」である。今日は、これら三つをすべて満たしていた。今は「体験」で終わってしまってもよい。子どもは教室外でも学んでいくことを考えると、プログラミング教育に対して苦手と思わせないような取組となってほしい。

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」研修会（道徳）

宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー 特任教授 堀越 清治 氏



11月26日（火）、若林区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立沖野中学校（大村宏人校長先生）において、授業研究会が行われました。当日は、1年生と2年生の道徳科の授業を公開し、教育センター指導主事をはじめ、他校及び沖野中の先生方を併せ約50名の参加者がありました。授業公開後、分科会をワークショップ形式で行い、全体会で堀越特任教授から

- 1年3組・道徳科
「ごみ箱をもっと増やして」
授業者：山越 圭一郎 教諭
- 2年4組・道徳科
「なみだ」
授業者：田中 敦子 教諭

授業等について指導講評・助言をいただきました。概要は次のとおりです。

- ①これから求められる「考え・議論する」道徳について
 - ・他との話し合いによって考えを磨き上げていき、実践へつなげていくことが求められている。
 - ・実り豊かな思考を促すためには「拡散」が必要である。
 - ・よりよく生きていこうと自ら考え続ける姿が大切である。
- ②本時の授業について
 - ・教材の登場人物に対する自我関与がしっかりとなされていた。
 - ・また、問題解決型の学習となっていた。
 - ・対話の時間確保、観点、雰囲気作り、グループ編成について、特に、考えを深めるための手立てについては今後も検討を。
- ③探究の対話について
 - ・意見の「キャッチボール」が主体である。
 - ・形態は様々だが、児童生徒の探究心を育みながら安心感のあるコミュニティーを形成し、自らの考えを深めていくといった取り組みであり、「主体的・対話的で深い学び」に関わるものとなっている。

